

とく 特ダネ、とく 特オチ

他の新聞には出ていない記事のことをいう。しかし、ただ単に発表ではなく、独自に取材したから全て特ダネというわけではない。それは、「独材」という記事だ。

特ダネと独材はなにが、違うか。他の新聞がすぐに追いかけるか、どうか、その目安となる。特ダネはやはり、まずテレビ、通信社が追いかけて、次いで締め切りが来る他の新聞が追いかけて特ダネとなる。その中でも顕著なものが、社内表彰の対象になり、新聞協会賞ともなる。

特オチは、自分の新聞には出ていないが、他の新聞には出ている場合をさす。めったにあるものではない。ただ、通信社電や、現在ではホームページの見落としとしてそうした可能性がある。特オチとは、もう一つ、例えば、読売には載っていないが、ライバル社の朝日、毎日、日経には載っていた、というケースもいう。2社に載っているケースはよくあって、これも広い意味での特オチで、反省の対象だ。

おかだじけん

岡田事件

82年8月、三越で展示されている「ペルシャ秘宝展」ににせものが混じっていることが明らかになった。朝日新聞の特ダネだった。私は丸の内署担当の1方面サツ回りとして、「追いかけて」先輩遊軍記者と担当した。途中で三越のワンマン社長だった岡田茂氏が、愛人と会社を私物化しているという話になり、9月、取締役会で解任動議を突きつけられ「なぜだ」という有名なセリフを残して、去っていった。その後、岡田氏は特別背任で逮捕されるが、そのときは警視庁クラブの2課担当として、かかわった。朝日新聞の最初の報道を見たときは、「本当かよ」というのが、正直な気持ち。老舗でそんなインチキが、と思ったが、調べていくと本物。そのころから、デパートと縁があったということか。やがて、プランタン銀座で三越の出向者と一緒に経営陣に入るとは。